

今、そして未来のために 環境にやさしい町づくり

かけがえない地球の温暖化解決に向けた町の取り組みは、今年で六年目を迎えました。地域の資源を有効に活用して、新エネルギーの可能性を追求しながら、わたしたちに身近な省エネルギーも共に進めていきたいと思います。エネルギー自給一〇〇%のまちづくりを目指して！

始まりは風車から

町は平成十一年六月十七日、「新エネルギーの町・葛巻」を宣言しました。

袖山高原に誕生した風力発電施設の竣工式典で、「先人からの贈り物である豊かな自然を守り育て、天のめぐみ（風力や太陽光）地のめぐみ（畜産ふん尿や森林、水力）③人のめぐみ」を大切にしながら、町民一体となってクリーンでリサイクル可能な新エネルギーの導入を積極的に取り組んでいくことを誓いました。

町内の新エネ施設

この宣言から六年。新エネルギービジョンの先導的モデル事業として、町が出資している第三セクターのエコ・ワールドくずまき風力発電（株）が建設した三基の風車（一一二 キロワット）を機に、地球の温暖化防止に向けた町のエネルギー政策は積極的に進められています。

町内にある最大規模の新エネルギー施設は、平成十五年、上外川地区に十二基建設された風力発電

所（二万一千キロワット）で、事業

主体は電源開発（株）（本社東京）が

一 %出資している（株）グリーン

パワーくずまきになります。この

ほか葛巻中学校の太陽光発電シス

テム（五 キロワット）、くずまき高原牧

場には葛巻町バイオガスシステム

（三七キロワット）やバイオガス高度利

用コジェネレーションシステム（燃

料電池 ・七五キロワット）、今年九月に

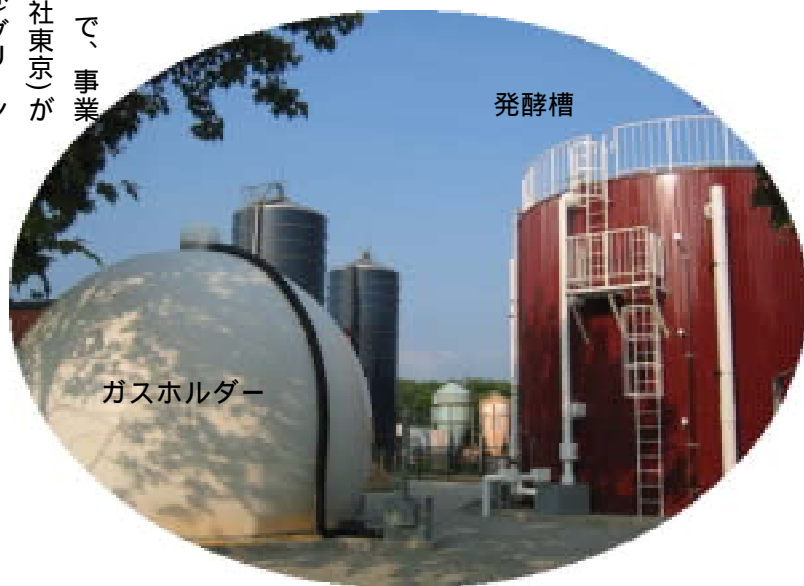
完成した木質バイオマスガス化発

電施設などがあります。家畜のふ

ん尿や木クズなど産業廃棄物とも

いえるものがリサイクルされ、有

効なエネルギーに変えられています。



発酵槽

ガスホルダー

バイオガスシステム 平成15年整備
葛巻バイオガス高度利用コジェネレーションシステム 平成13年整備
（くずまき高原牧場）



ペレットボイラー（アットホームくずまき）
1時間当たり500,000キロカロリー×2基、
平成15年整備

一般家庭や事業所での導入実績

- ①太陽光発電15件 ②太陽熱温水器61件
- ③ペレットストーブ30台 ④風力・太陽光ハイブリッド発電1件
- ⑤ハイブリッド車1台 ⑥エコキュート1件、⑦ペレットボイラー2件

エネルギー自給率

町内の電力使用量は、一年間に約三万キロワット時。新エネルギーによる発電量は約五六万キロワット時で、電力自給率は一八五%に達しています。

現在、町全体の年間エネルギー使用量は約一六七〇億キロワット。これに対し、新エネルギー供給量は約一三〇〇億キロワット。町のエネルギー自給率は七八%（平成十五年度末現在）になっています。

今後は、特に家畜排せつ物や木質バイオマスエネルギーの利用、と省エネルギーを積極的に進め「エネルギー自給一〇〇%のまち」を目指します。

エネルギー補助金

町では、環境にやさしい新エネルギー設備（太陽光や太陽熱を利用した設備を住宅や事業所に整備する場合など）の購入費用を助成しています。

町の取り組みが高く評価

新エネ大賞

資源エネルギー庁長官賞に輝く

第十回新エネ大賞（財団法人新エネルギー財団主催）の表彰式は十月二十四日、東京国際フォーラムで行われ、葛巻町が「資源エネルギー庁長官賞」を受賞しました。

「くずまきの環境は未来の子どもたちへの贈りもの」をキャッチフレーズに掲げたこれまでの取り組みが、経済産業大臣賞に次ぐ、栄えある賞へと導きました。

受賞理由として、町おこしと新エネルギーを結び付けた活動や事業者

との協力関係、町内での積極的な普及啓発、町外からの流入効果などが挙げられ、地域に根ざした新エネルギー導入活動が高く評価されました。

昨年十二月、環境省の「循環・共生・参加まちづくり表彰」に続いての受賞。ここ三年で、新エネルギー・環境関連の表彰は六回を数えます。「自然と人間の共生」を原点到、町民や事業者の理解を得て、町は着実に前進しています。



木質バイオマスガス化発電施設

（くずまき高原牧場 木材チップ3トで1時間当たり電気120キロワット、熱266キロワット。平成17年9月、NEDOと月島機械（株）が整備



太陽光発電（鈴木商店）
8.75キロワット、平成13年設置

グリーンパワーくずまき風力発電所（上外川）
1,750キロワット×12基、平成15年整備

くずまき環境パートナー
シップなあす
代表 向川原 孝さん



一般の方もエネルギーに対する意識が大分変わってきたように思います。環境への取り組みが町のイメージアップにつながり、相乗効果が出ています。「なあす」は町民と行政の橋渡し役。これからも町のサポーターとして、もっと町民に環境への理解を深めてもらえるような活動をしていきたいと考えています。各団体も何か一つでもいいので取り組んでほしいと思います。

くずまきの環境は 未来の子どもたちへの贈りもの

できるところから 進めてみましょう！



環境エネルギー政策課
課長 入月俊昭

新工ネ大賞の受賞は、多様な新エネルギーを積極的に導入していることと、多くの視察者を受け入れ、地球温暖化防止対策の必要性を広く全国に訴えていることが評価されたものです。町民の皆さんのご理解をいただきながら、さらに新エネルギー、省エネルギーを中心とする環境対策を進め、魅力ある、そして活力あるまちづくりにつなげていきます。



わたしたちもやってるよ！

手洗いの水を出すときは、
えんぴつ！本分の細さだったよね

(葛巻小学校)

省エネの取り組み

平成十六年二月、町は「葛巻町省エネルギービジョン」を策定しました。「くずまきまちへの環境は未来の子どもたちへの贈りもの」がキャッチフレーズです。

今のわたしたちも、先人が守ってきた自然や風土、文化を受け継いでいます。だからこそ、次の世代へもよりよい状態で贈りたいものです。

自然の光や風などの「天のめぐみ」、身近な森や川などの「地」のめぐみ、郷土を愛する「人のめぐみ」をはぐくんで、「省エネルギー」を進めていくこと。新しい

ライフスタイルの創造や快適住環境の整備など、知恵や工夫によって、子どもたちを中心に、「無理なく、楽しく続けられる省エネルギー」が目標です。町民一人ひとりの取り組みとその積み重ねが、二酸化炭素排出の削減や資源枯渇への対策につながり、わたしたちが住んでいる地球と豊かな自然を守ります。

地球環境に優しく、自然のめぐみやエネルギーを大切にすることをはぐくみながら、省エネルギーや新エネルギーをもっと身近に感じ取り組みを広げてほしいと願っています。